

## 令和7年度 課題設定報告会（2年人文社会科学科・理数科学科）

令和7年5月22日（木）6・7限に、2年人文社会科学科・理数科学科80人が課題研究の課題設定報告会を行いました。

人文社会科学科は国語、地歴公民・家庭、英語の各班計10班、理数科学科は物理、化学、生物、地学、数学、情報の各班計11班、合計21班が、課題設定の理由や研究の進め方について、それぞれ発表しました。

地歴公民・家庭2班は、『人生ゲーム』で価値観の可視化」というテーマのもと研究を行います。ほとんどの人が一回は遊んだことがある人生ゲームは、幅広い年代のニーズや文化的背景に影響を受けているのではないかと考えました。人生ゲームの日米比較や年代別の比較、さらに製造元への調査等を行うことで、国別・年代別の文化的背景を紐解き、新たな視点から自分たちなりの人生ゲームの作成を目指します。



視聴覚室会場の発表の様子



化学室会場の発表の様子

化学1班は、「梅干しの科学」というテーマで、主に梅干しの抗菌作用について研究します。まず本校の先輩方の先行研究の方法を利用して、梅干しの抗菌効果を確認します。そして、梅干しに含まれる抗菌作用を示す物質を特定し、その効果を最大限に活かす条件を検証する予定です。さらに、梅干しに含まれる成分を抽出し、プラスチックを使わず、安全性の高い抗菌シートを作成したいと考えています。

物理2班は、「プラスチックスプーンの形状の改善」というテーマで、スプーンの強度を維持しながら、原料であるプラスチックの量を減らす研究に取り組みます。コンピュータを用いてシミュレーションを繰り返し、そこで得られたデータを元に3Dプリンターでスプーンを作り、実際の強度を確認するなどして、最適なスプーンの形状を検証します。



物理室会場の発表の様子



報告会后、助言を受けている様子

発表後の質疑応答では、本校教員や富山大学・富山県立大学の教員から、「広すぎるテーマは難しい。何を明らかにするのかを絞り込もう」、「既存の研究に対して自分が何を問い直すかが大切」、「実験は、設計・再現性・検証可能性が最重要。常に意識しよう」、など、多くのアドバイスをいただき、とても有意義な会となりました。課題研究は、今後、中間発表会（9月27日）、三校合同発表会（12月20日）、校内発表会（1月21日）と進めていく予定です。